

■問題提起



芸術が重要な役割を担う現代で、その渦中にあるのは「瀬戸内海」である。瀬戸内海には、芸術に関する施設が多く建てられており、芸術祭も行われている事で盛り上がりを見せている。

備後地域もその例外ではなく、尾道芸術祭やアートベース百島、福山アートプロジェクトなど芸術に力を入れており、福山市の鞆の浦の景色や尾道市の街並み、府中市の家具、三原市の城跡など土地にも多くの魅力が存在する。

しかし、備後地域はこれだけの好条件が揃っていながらもアーティストが表現する場が少なく、一般の人が触れ合いづらいのが現状である。

本計画では、備後地域のアートの魅力を発信する施設を提案する。

■ダイアグラム



イメージベース



形態ダイアグラム

空間構成としては、最初に備後地域の魅力というものを抽象的に表し、それを建築の中に落とし込んでいった。

- ・一つ目は、部屋である。部屋は瀬戸内海に広がる島々を抽象化し、四角の部屋とした。
- ・二つ目は、柱である。柱は備後地域に存在する木々を抽象化した。
- ・三つ目は、通路である。通路は瀬戸内海にかかる橋を抽象化した。
- ・四つ目は、階段である。階段は備後地域に広がる山々を抽象化した。



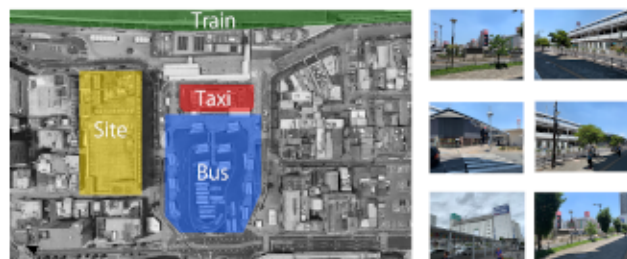
平面的構成ダイアグラム



立面的構成ダイアグラム

まず、柱を無数に乱立させていった。これは柱と柱の間を通るのがまるで備後地域にある森や山などの自然の中を歩いているかのように表現した。次に乱立した柱に、島々を表現した部屋を配置していく。4000mm、6000mm、8000mm、10000mm、20000mmの五種類の正六面体からなり、この大小様々な部屋を組み合わせて配置していくことによって、建物の中に居ながらも、備後地域の自然的な魅力である山や海などを感じてもらう。

■計画敷地



敷地図

敷地周辺写真

計画敷地は、広島県福山市福山駅前CASP A跡地とする。

備後地域のアートとしての魅力を発信する施設を計画する場合、備後地域の中心である福山市のさらに中心である福山駅は備後地域全体の核となる施設を計画する場所として最適であると考えられる。

福山駅は新幹線が止まる駅でもあり、多くの人々が色々な場所に移動する際に使用する場合や立ち寄る事が多く、人通りが激しいので多くの人々にアートを発信していくという点において適しており、アートに関心が薄い人でも気軽に触れ合うことができるという点でも適している。